

広島別院だより

Vol.34
秋号真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

秋彼岸によせて

九月二十四日に予定していました広島別院秋彼岸会はコロナ禍による緊急事態宣言中のため、僧侶のみの内勤めとなりました。法要後の法話も中止となりましたので、出講予定であった泉原寛康師（安芸南組法正寺）から一文を寄せていただきました。（ここに掲載いたします）

●此岸＝はかり知れない智慧といのちの世界

彼岸とは仏様のさとりの境地のことです。浄土真宗では阿弥陀仏の淨土を彼岸とし、阿弥陀仏の無量光（はかり知れない仏の智慧）と無量寿（はかり知れない仏のいのち）のはたらき世界であると言われます。

●此岸＝物事を数値化する世界

彼岸が仏様のさとりの境地であるのに対し、私たちの生きる世界は此岸（しがん）と呼ばれ、迷いに満ちた世界であると言われます。

以前、真城義麿先生（元大谷高校校長）が「私たちがあらゆる物事を数値化して認識している。その証拠に二ユースの最後には必ず株価と為替レートで終わる」と話されていました。

先生の言われる通り、私自身、ニュースから流れてくるコロナ感染者の数値でしか、コロナ禍という今の時代を認識する手立てを持っています。そして、そ



泉原寛康 師

構成上の都合のため、本文を編集しております。
(編集部)

の数値で一喜一憂し振り回される日常を送っています。それを迷いの世界、つまり此岸というのです。

●此岸＝偏見で物事を分別する世界

物事の数値化と同じように、私たちはすべての事柄を分別して理解します。『正信偈』に「有無の見」という言葉が出てきます。私たちは物事を「大・小」「好き・嫌い」「自・他」のように二つに分別することで理解します。それを「有無の見」と言います。しかし、私たちの物の見方には必ず自分の都合というものが中心にあるので、物事の見方には必ず偏りがあるのです。そして各々が偏った自らの見解に固執し、他者を傷つける。「有無の見」とは、そういう私たちの偏った姿を示す言葉です。

●彼岸（淨土）は此岸にはたらきかけている

阿弥陀仏の智慧といのちの世界である彼岸は、「有無の見」によって互いを傷つけ合う私たちの姿をどちらき」を持っていいるのです。名詞ではなく、「はたらき」そのものなのです。



今、コロナの時代にあって感染症の対策を万全に整えた上でお寺に参り、仏法の座に身を置くことは、とても大切なことではないだろうか」と講座の最後を結ばれました。来年からは「真宗の仏事入門講座」と題して仏事の基礎を学ぶ講座が開催されます。是非ともご参加ください。



三明智彰 師

二〇一八年十月から三年にわたり開催されてきた「真宗基礎講座」が親鸞の生き方にたずねてII」が八月二十一日をもって終了しました。

九州大谷短期大学学長の三明智彰先生を講師に迎え、親鸞聖人のご生涯に学ぶ講座は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、幾度も中止を余儀なくされました。最後の講義で三明智彰先生は「人類はかつて何度もウイルスの攻撃に晒されてきた。それは親鸞聖人や蓮如上人の時代も同様である。それでも先人は聞法を止めなかつた。それどころか、幕府や朝廷から念仏を禁止されても念仏を称えることを止めなかつたのである。

真宗基礎講座が終了

親鸞は平安末期の一一七三年に生まれました。父は藤原家の末流である日野有範、母は諸説あり不明ですが、源氏の流れだということです。五人兄弟の長男でした。親鸞は家族の愛情を受けすぐすくと育った……ということはあります。五人兄弟の長男でした。平家全盛の時代であり、そのあたりを受けてか、父は親鸞が四歳の時に出家してしまいました。また母親も早くに亡くなり、叔父の下で養子として育てられることとなつたのです。

ある先生にお聞きしたことですが、その方も小学生の時に父親を亡くされたそうです。その葬儀で泣きながら母親をふと見ると、母親が泣き崩れていたそうです。その瞬間、この母親にすがることはできないのだと直感したと、言われてきました。早くに親と別れた子どもは大人びて見えることが多いですが、心の底から甘えることができなくなり、早く大人になることを強いられるのでしょうか。

また、当時は飢饉も多く、特に養和の飢饉(一一八一)は鴨長明が方丈記に書き残しているほど悲惨なものだったと伝えられています。

内外に無常を感じさせる出来事が続く中で、幼い親鸞は何を思い生きていたのでしょうか。

親鸞聖人の生涯を辿る

法座・講座等のお知らせ

12月1日(水)・2日(木)報恩講

【講 師】 栗栖寂人 先生 (たつの市 正行寺住職)

【日 程】 1日 14:00～勤行と法話 16:30～御伝鈔の拝読

2日 8:00～勤行と法話 10:00～勤行と法話



＜親鸞聖人の祥月命日を縁として勤めさせていただく、浄土真宗の最も大切な法要です。お誘いあわせのうえお参りください。＞

注)法要期日が緊急事態宣言下になりましたら、内勤めといたします。参詣はご遠慮ください。

2月26日(土) 真宗の仏事入門講座

【講 師】 近松 誉 先生（東本願寺本廟部部長）

【日 程】 每回 13:30~16:00 【会 費】 500 円

〈浄土真宗の仏事について学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉



毎月5日 定例法話（ご今日の集い）

【講 師】 境内僧侶(日替わり) 【日程】 14:00~勸行と法話(15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日（毎月 5 日）に法話会があります。〉

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等してコロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。

今年は十月に入つても暑いことです。やれやれです。七月、八月には台風や大雨で各地に災害が起きました。想定外の事が・・・、と口にしますが、本当に想定外なのかと疑問に思います。

私たちは自分にとつて都合の良いことは想定するのですが、大方、想定するようには運びません。もし、思うようになつたのであればタマタマのことでしょう。私たちの周りで起こりうることは、もともと自分の思い（想定）を超えたことしか起こらないのにも関わらず、想定外だと・・・。

そんな、自分に都合の良い事ばかりを想定して、思いどおりにならないことに出遭つて、苦惱する我々に対して、「やつぱりそつなるじゃろ？」と、私のことを見通して、ず一つと前から案じてくださる方がおる。そうでした。忘れていました。私のことを案じてくれる方のことを。見えないものに支えられるって、こういうことを言うんだろうなあ。

とは言つものの、これから段々と寒くなります。どれくらい雪が降るのか？勝手に想定してみようと思います。

【編集室より】

道場樹

真宗大谷派(東本願寺)

〒730-0044 広島市中区室町4-16

東本願寺 広島別院

廣島別院 明信院

TEL 082-241-5342 (電話・FAX 共通)

